

## ＜神さまは私たちの盾＞

民数記14章 1-3節

高大韓 伝道師

神さまの祝福が豊かにありますようにお祈りします。民数記 14章 1-3節の御言葉はイスラエルの人々が泣き言をいう場面です。12人の人々が40日間カナンの地を偵察しました。その報告を聞いたイスラエルの人々は声をあげて叫び、泣き言をいい、不平を言い、夜通し泣いたとあります。

何か問題が生じたとき、イスラエルの人々が最初にとった行動は何でしょうか。神さまにお祈りをしたのではなく、モーセとアロンに対して不平、不満を言うことでした。モーセとアロンは非常に虚しい気持ちであったと思います。神さまはイスラエルの人々をエジプトから救い、ここまで導き、カナンの地の前まで来ました。もうすぐ神さまが約束してくださった最高の土地に入ることができます。しかし、その前まで来たのにもかかわらず、リーダーであるモーセとアロンに対して不満を言い、民数記 14章 4節では、「新しいリーダーを立ててエジプトに戻ろう。」と話すイスラエルの人々を見て、モーセとアロンには立ち直れないほどの悲しみがあつたと思います。

クリスチャンである私たちが一番話してはいけない言葉は何でしょうか。「救われてない時の方が良かった。」と話す事です。当時、イスラエルの人々が話してはいけない言葉は、「エジプトに戻ろう。」と話すことでありました。しかし、そのことを今話しています。イスラエルの人々はそのことを口にしています。

一番の問題は、今、イスラエルの人々が神さまに問題を話しているのではなく、自分たちで解決をしようとしていることです。自分たちの考え、自分たちの行動でこの問題を解決しようとしています。そうです。私たちの中に神さまがいないと自分勝手に行動します。そのようなことがないようにいつも神さまと共に歩まなければいけません。

答えがないように感じるかも知れません。神さまの声が聞こえず、状況は何一つ良くなっていないかも知れません。しかし、神さまは私たちの栄光であり、盾であることを告白しながら生きましょう。不安で仕方ない毎日かもしれませんが、信仰で生きることが大切

であります。お祈りをするのが大切であります。

神さまが私たちの希望となれば、私たちは恐れなくなります。神さまが私たちと一緒にいれば恐れというのは消えてなくなります。

今、皆さんの中に神さまはいますか。その神さまは沈黙をされていると考え自分の力で物事を解決しようとしていませんか。イスラエルの人々のような過ちを犯さずに、いつも神さまと共に、私たちの盾となってくださる神さまと共に毎日を歩む私たちでありますようにお祈りをします。

### ★ 「悩みは悩みすぎ？」

朱智子

8月半ばになると蝉の大合唱があまり聞こえなくなり、秋も近づいてくる頃ですが、まだまだ猛暑が続き、コロナ・自然災害と先が見通せず色々と悩まされる状況です。

さて、人の悩みの97%は実際に起こらない取り越し苦労な悩みだという記事を目にしました。確かに、悩み癖から推測であーだこーだと決め掛かって悩んでいるなど思う節ありです。悩み事にとらわれずにポジティブに前を向いて歩めば、受け取り方や考え方で判断も変わり、人間関係や歩む道も違って来るかもしれません。

「それだから、あなたがたに言うておく。何を食べようか、何を飲もうかと、自分の命のことで思いわずらい、何を着ようかと自分のからだのことで思いわずらうな。命は食物にまさり、からだは着物にまさるではないか。空の鳥を見るがよい。まくことも、刈ることもせず、倉に取り入れられることもしない。それなのに、あなたがたの天の父は彼らを養っていて下さる。あなたがたは彼らよりも、はるかにすぐれた者ではないか。あなたがたのうち、だれが思いわずらったからとて、自分の寿命をわずかでも延ばすことができようか。マタイ 6:25~27」

思いわずらわず、主に委ねる信仰を。

まだ見ぬ事に悩まず、今出来ることを。

主の恵みの中、知恵ある豊かな毎日でありたいと願い祈ります。

残暑厳しき折、皆様どうぞお身体ご自愛ください。



★

趙和子

「わたしは道であり、真理であり、命である」と言われた。

主イエス・キリストの御名を讃美します。

東京から京都の地に嫁いできて 47 年になりました。

教会生活の中 礼拝堂でメッセージを頂いて恵まれ 力を頂き感謝です。兄弟姉妹から励まし助け  
てもらったこと、美味しい物を御馳走して下さい嬉しかったこともいっぱいあり 思い出します。

忘れない神様の助け、信仰の友が支えてくれたこと、直接その愛は返せなくても他の人に私自身  
ができたらと願っています。

コロナ禍 教会で礼拝を礼拝堂であることを自粛 活動も中止 私たちは忍耐と時を待つことを学  
びました。

主人が 4 月 30 日に入院闘病生活を 2 年半送り お別れしました。コロナ禍にあり 面会も 1 回  
5 分に制限されるなかでした。

主人の母 徐命仁執事任からは人と教会生活で大事なこと 主人からは人として大事なことを教  
えてもらいました。

私は教会と家庭で与えられた事 すべきことを受け止め 責任をもってできたらと思っています。

私を思い出したときお祈りしてください。



★

金絹江

新型コロナウイルスの大流行（パンデミック）により、すべてが変わり大きな苦痛を経験し、そ  
れが今も続いています。当たり前と思っていたことが当たり前でなくなり、マスク生活、外出の制  
限と多くのものが変わり、世界が止まってしまったような錯覚に陥りました。

日常生活で一番変わってしまったのは「主日」です。これまでのすべての時間、教会に行くこと  
から始まり、教会で終わる生活でしたが、オンライン礼拝形式により教会の行事・奉仕活動が中断  
され何をすればいいのか戸惑うことも多くありました。それでも今は対面礼拝となり、日常生活も  
少しずつ緩くなりました。

このような状況ですが、神様から自分自身に考える時間が与えられたと思い、もう一度主に立ち  
帰り、主の恵みに授かっていることを覚え残された人生を大切にしたいと思います。



★

斐弥生

私は、CS の教師として毎週子ども達と聖書を学んでいます。今は「世界に広がる宣教」でサウ  
ロ（後にパウロ）の回心・伝道旅行へと旅立つ所を勉強しています。

サウロは、もともとクリスチャンをひどく迫害していた人ですが、本当の神様を信じていない訳  
ではありませんでした。聖書を読むだけではなぜ、それがクリスチャン迫害へとなるのかわかりに  
くい部分かもしれませんが、サウロはその熱心さ故、十字架にかけられたイエス様を「神の子」と  
呼ぶのは神様に対しての冒涇と考えていたからでした。その為、イエス様の教会を懲らしめること  
が神様に仕える正しい道だと思っていました。全ては神のためと信じて疑わずに。

そのようなサウロが、天からの光に照らされてイエス様からの語りかけを受け、3日間目が見え  
ないまま祈りの中で時間を過ごします。回心したその後のサウロ（パウロ）の働きは聖書の中にあ  
るとおりですが、ユダヤ人にしか語られていなかった聖書のみ言葉が、今では世界中でキリスト教  
として広まっています。パウロの伝道の働きが無ければ私達も神様のみ言葉を知ることがない人生  
だったと思います。迫害者が救われて世界宣教を実現していくとは誰が想像できたでしょうか。人  
を新しく造りかえて下さるそのような神様の大きな愛に本当に感謝します。

私も神様がパウロを用いられたように、子どもたちに神様のみ言葉を伝えていくことが使命と信  
じています。私に出来ることは多くありませんが、神様の愛を心に受け入れるその喜びを子ども  
たちに伝えていきたいと思っています。



♡♡ 信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある  
喜びを捨て、恥をもいとわないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったので  
す。（ヘブライ人への手紙 12：2）

♡♡ 次回の女性会聖書勉強会は 2022 年 9 月 6 日（火） 10：30～12：00 です。  
・担当：林明基牧師  
（教会の行事のため原則 12 月、1 月、8 月はお休みとなります。）

※ 2022 年 教育部だよりは 5 月、8 月、11 月 計 3 回の発行を予定しています。

原稿は ▶ 教会あて TEL (075-311-5051) / FAX (075-313-3778)、郵送など。  
※ メール ([mison3252@gmail.com](mailto:mison3252@gmail.com))